

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「学びを通して 共生 共感 創造 を育みます」
○お互いを思いやり、認め合い、社会に貢献しながら共生できる生徒を育みます。(公・開)
○自分らしさを豊かに発揮し、心身の健康を考え安全・安心な生活を送ることのできる生徒を育みます。(徳・体)
○興味関心を広げ、自ら創造・工夫し課題に取り組み、夢をもち未来をたくましく切り拓いていく生徒を育みます。(知・徳)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<グローバル化の中で生きる力>
<自分づくりに関する力>
<確かな学力>

具体化した資質・能力

- コミュニケーション能力 ○コラボレーション能力 ○多文化共生社会を形成する態度
○自律心 ○自尊感情、自己有用感 ○主体的社会貢献に向かう力
○夢と目標をもち生き方を追求する姿勢 ○言語表現力と読解力 ○問題発見・解決能力

中期取組目標

魅力ある「私の学校・私のまちおらが学校」となる横浜吉田中学校を目指します。
○新学習指導要領に基づいた教育課程を実践し、PDCAの観点で改善をすすめます。
○全教育課程で絆づくり、居場所づくりを観点とし、自己有用感の向上につなげ個々に応じた組織的な生徒指導を進めます。
○本校の教育環境を生かしたグローバル人材育成の教育をすすめます。
○校内環境整備を大切に、落ち着いた環境づくりをすすめます。
○まちや社会等、人とのつながりから自他を大切にしたい気持ちや思いやりそしてまちを大切にしたい気持ちの育成をすすめます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きてはたらく知) and 具体的取組 (①めあてを明確にした授業展開や板書提示等により学びの意識化を進める。②発問等の工夫を心がけ主体的に考え、対話し学びを深めさせて、学びの主体性を高めていく。③授業週間と授業研究会の実施や小中授業交流再構築による授業改善の推進。④公開授業を設定し外部への積極的な情報公開と評価の推進授業改善を進める。)

学力向上に関わる本校の状況
1 教科学習への関心や意欲はとも高く、習得意識はしっかりと持っている。
2 外国籍や外国につながる生徒を始め、在籍生徒には、家庭環境や生育歴等に見られる傾向からコミュニケーション力や学習習慣の定着に課題が少なくなく、学習の深まりが十分に進まない。
3 外国籍や外国につながる生徒たちの中には、日本語について、生活言語にとどまり、教科言語の習得が不十分な傾向が見られ、定時制への進路、中途退学する生徒も見られる。
【児童生徒】
生徒実態(全国基準)
生徒実態(神奈川県基準)

今年度の目標
*各教科等の評価規準に基づいて、指導と評価の一体化をPDCAの視点で実践していく。また信頼ある学習評価と授業づくりについて、自己の研鑽を始め、教科会充実、講師派遣による研修等、様々な形態で積み重ね、構築を図り、生徒への還元につなげる。
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
(1)教員の適切な人権意識と感覚に基づいた平常授業を展開し、特別支援教育の視点を意識した取組の実践を行う。
(2)6月より、1学期に1回以上の公開授業週間を設定し、保護者・地域の参観・アンケートを実施し、様々な視点からの意見を踏襲する。
(3)放課後学習支援事業「此処夢塾」を外部ボランティアの協力の下、7月より1月まで実施する。
(4)3年生対象に業者テストを実施し、生徒個々の現状分析を行い、よりの確かな進路指導につなげる。
(5)中学校の授業をブロック小学校に公開し、授業参観・評価、生徒の状況把握等、9年間で育てる資質・能力の育成に向け、授業研究を進め、自校の実践につなげる。
(6)1、2学期に、生徒による授業アンケートを実施し、授業改善の一助とする。
(7)夏期休業中に、外国籍や外国につながる生徒に向け、通訳同席の進路指導説明会を開催する。また卒業生が学校紹介を行い、進路へ具体的なイメージを持たせる。
下半期
(1)上記の内容についてその実践に向け、継続的な取組を行う。
(2)ブロック小学校の授業研究会への参観を行い、9年間で育てる資質・能力の育成という観点での授業改善の視点を養う。
(3)校内授業参観週間に年に2回以上実施し、組織的に授業改善の環境熟成を図る。
(4)3年間の見通しを持ち、各学年の発達段階に応じたキャリア教育に取り組む。
(5)指導主事の講師派遣、グループワークを取り入れた協議の形態で校内授業研究会を開催し、評価規準に基づく指導と評価の一体化、信頼ある学習評価の確立につなげる。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心) and 具体的取組 (①道徳のねらいに基づき教材を工夫した授業づくりを進め、校内参観等、情報共有と授業改善を図る。②校歌斉唱により自校愛を育み、あいさつ、行事での学年間の縦・横による取組等、様々な活動実践により相互理解を高め、豊かな心を育む。③国際平和スピーチコンテスト、人権作文、横浜子ども会議の取組推進とその積極的広報の実施する。)

豊かな心に関わる本校の状況
1 学校が友人関係、教育活動による充足感等で居場所になっている生徒は少なくない。
2 教育活動で、自分の良さ目に向け、また失敗を恐れずに挑戦しようとする気持ちを持っている。
3 家庭環境、育成歴から、自分は大切にされていると実感していない生徒は少なくはない。
4 自分を大切にすることに課題がある。
5 学校行事を柱にした教育活動を通じ、自己有用感の高まり、他の生徒や他学年の生徒への理解、役に立とうとする気持ちの高まりは見られる。
6 規範意識にやや課題が見られる。
7 地域、社会へのつながりや役立つ意識は、やや薄く感じられる。
8 自分づくりに向け、社会的なスキル(傾聴や表現等)に課題が見られ、自他への対立が見られる。

今年度の目標
*確かな人権意識と人権感覚に基づく自尊感情を高める環境づくりを構築し、全教育課程において自己有用感の向上を明確に位置づけその実践を推進する。
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
(1)道徳年間計画に示す目的を全教職員が共通理解し、その目的の実現に向け、教材・教具等の工夫・研究を試行錯誤と情報共有を行い、豊かな情操心の育成を図る。(通年)
(2)道徳係に学年主任を配置し、(1)の徹底を図り、実践の熟成を図る。(7月)
(3)外部より講師を招き、道徳授業の研究等を通じ、教科授業で教職員のファンリテートの力量の認識を深め、教科授業の具体を実践し、研究を積み重ねる。(通年)
(4)生徒のコミュニケーション力の定着に向け、基本であるあいさつの実践として、生徒会のあいさつ運動、教職員のあいさつ朝礼等、具体を仕掛けていく。(通年)
(5)全校集会等で校歌斉唱等の積極的な場面設定を行い、学校愛を深める。(通年)
(6)体育祭、校外学習、合唱祭、文化祭等、人とのつながりを通じた取組により、コミュニケーション力の育成と集団規範の向上等、自分づくりを推進する。
(7)多文化共生を視点に、よこはま国際スピーチコンテスト、人権作文の実践の取組を確実に進める。(9月)
(8)管理職や外部講師依頼の教職員の研修の推進を図る。(通年)
下半期
(1)1、2年生による多文化共生プログラムを外部関係者の協働や校内方式による実践を行う。
(2)「JICA(財団法人海外日系人協会)」の研修生の受け入れとその交流を計画、実践し、グローバル人材の育成及び国際感覚の熟成の機会とする。
(3)職業体験学習、職場体験で地域の方や外部関係者との交流により、人とのつながりの学びから人間力の熟成を図る。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体) and 具体的取組 (①食育実践校として適切な食の選択力育成に向け小中連携にて教科指導を通じた食育の推進を図る。②学校保健委員会に向けた調査、実践、発表や給食実践校としての取組等を柱に食を通じた心身の健康課題に向き合う場面としその実施を進める。)

健やかな体に関わる本校の状況
1 体育・健康に関する実態
(1)スポーツテストの結果は、全国及び横浜市の平均と比べると、全体的に低い値を示した。
(2)朝食の摂取率は直近での校内調査では6割程度を示し、改めて低下傾向を示している。また、食のバランスにも課題があり、偏食が目立つ。
(3)保健室の利用状況では、全般に家庭や教室生活に安心を求め、助言や環境を求める生徒の傾向が見られる。
2 体力の概要と要因の分析からわかる状況
(1)新体力テストの結果から、ほとんどの項目が全国及び横浜市の平均値を下回るものであった。体格的な課題より、運動能力に課題が見られ、これまでの生育歴における運動経験の少なさが要因と考えられる。
3 安全教育的育成
(1)非常災害時訓練等において、適切な知識の定着とその実行力に課題が感じられる。

今年度の目標
1 運動への認識を広げ、運動の楽しさ、体力向上を図り、また多様な形態の運動より、協働を通じて課題解決の喜びを実感する。2 給食、食育実践校として、食に関する課題を自主的に発見し、改善への具体を実践し、解決に向けた、食育活動を進める。
目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
1 教科指導
(1)自らの生活習慣のひとつに運動を位置づけ、親しむ意識向上を図る。昼休みにおける校庭や時に体育館で複数回のボール運動の推進を図る。
(2)保健の授業でタブレットによるインターネットを通じた新しい情報収集等を行い、自らの健康・体力についての関心・意欲を高める。
2 食育推進
(1)食育教育推進の一環として、心身の発達段階に応じ、知識の理解・定着を進め、自ら健康の向上や食生活の重要性の認識を高め、その実践に結びつける。
(2)昼の給食時間で、当日の給食のメニューと栄養価等について、生徒へ発信を行う。
3 特別活動や総合的な時間等
(1)体育祭実施期間では、学年練習への関心を高め、全体として応援合戦の取組を通じ、集団による取組の意義を感じるよう計画と実行を推進させる。
下半期
3 保健委員会の実践と発信
(1)栄養教諭の協働の下、家庭科の授業で食育の推進を進め、適切な知識、課題発見、その改善の学びの機会を設定する。
(2)生活習慣アンケートを実施し、分析の上、給食化に向けた目的の明確化を行う。
(3)学校保健委員会にて、今年度の健康の増進に向けた具体を計画、実践をし、調査、発表を行い、全校への啓発活動につなげていく。
4 安全教育的具現化
(1)自他の安全に配慮した行動につなげる思考・判断力を育むため、校内活動とともに地域の災害訓練等への参画・交流を通じ、理解を深める。